

「トップダウンではないGGKを」ということで、有終南小学校にはより一人ひとりの教職員が主体的に取り組めるよう、「自主研究サークル」でGGKを進めるプロジェクトが存在します。アイデアは企画委員会を経て職員会議にかけられます。

GGKは「教職の魅力化」につながる大切なもの。

GGKニュースの取材を進めている中で、取組こそ違えど、その根幹にある大切な想いが共通していることが多くあります。今回は、「教職の魅力化」「やりがい」というところにもつながる2校の取組をお届けします。

キーワード:“もっともっと楽しい学校”を目指す

坂井市立東十郷小学校

「もっともっと楽しい学校にしよう」というスローガンは、教職員のアンケートから生まれたのだそうです。教職員の主体性によって決まった目標の元で取り組むことは、より心理的安全性が高い状態で進んでいけると言えます。「楽しい」には様々な意味が込められています。子どもたちだけでなく、教職員が十分に教材研究できることや、難しい仕事を乗り越えて味わう達成感も「楽しい」の一つです。

時間の削り出しや縮減を目指すあまり、教員としてのやりがいや自己成長の機会まで奪ってしまわないよう、本来の目的を明確にし、どんな手段をとるべきか考えることを大切にされています。

教員による朝の街頭指導とりやめ
地域の理解があつてこそ
教職員に学校の中を守らせてくれる

児童の学びのための やるべきこと+主体的な取組

教職員1人ひとりの個性が生きる取組

開かれた学校

管理職が毎日HP更新、地域へ赴き関係構築

150周年行事

歴史伝承を話せる地域の方の協力

教職員の「多様性」と
「やりがい」を大切にしたGGK

まずやってみよう・誰一人孤立させない

クラブ活動への外部人材 茶道・華道
教職員では準備できない外部の行事も

社会教育の重要性

隣接の坂井高校との連携

生まれたゆとりで、
よりよく働ける
充実感・自己肯定感UP

やるべきこと+主体的な取組に向かうための改善(一部)

- ・会議資料のペーパーレス化 (職員会議、PTA)
- ・校時表の見直し、登校時間帯の調整、清掃週3回
- ・終礼実施による職員会議の縮減
- ・学年だよりのテンプレート化
- ・学校だよりのデータ化 など

東十郷小のHPには、水色・桃色の2羽のうさぎが載っています。以前は桃色のうさぎには長いまつげとリボンがついていて、2羽の男女を明確に分けていたそうです。今は多様性の時代。2羽にはもう性による区別はありません。学校から示すイラスト一つをとっても、慣習にとらわれず柔軟に見直す姿勢がGGKにもつながっています。

南すりむ君プロジェクト

事務職員をリーダーとした公認自主研究サークル



プロジェクトメンバー

若手の教諭を中心とした挙手制
教頭や栄養教諭も参加 計7名

月1回程度の会議

- 「これは無理かな?」と思うものでもOK
- 自由に意見を出しやすい運営・ジャムボード活用
- ★文科省のチェックシートを参考に取組・振り返り・改善

企画委員会 ⇒ 職員会議

開始当初は、なるべくアイデアを採用
→プロジェクトメンバーの効力感UP
難しいアイデアも基本的には前向きに検討
信頼関係ができていて、プロジェクトメンバーと議論をすすめやすい。

これまでに取り組んだ改善例(一部)

- 【ICT活用】・保護者からの欠席連絡(Google form) ・会議等の資料PDF化 ・破損個所の写真共有 等
- 【日常的な業務】・窓開け閉め担当の学年エリア制(日直の負担軽減) ・月2回定時退庁デー(マグネットで予定表示)
・行事黒板⇒職員室に大型モニター設置 週時程2日分を画面表示 ・朝の連絡:タブレットへ
- 【環境整備】・物品の見える化(吊戸棚の戸の撤去)・必要な備品を追加(カードリーダーや延長コード)
・文科省事例集より横浜市・日枝小学校の例を参考に職員室の環境整備

プロジェクトリーダーに 伺いました!

過去の研修を参考にして実践...“トヨタ式見える化研修”
前任校でも整理整頓を大切にしていた。
職員会議後「全員で整理整頓タイム」取り入れていた。
整理整頓はちょっとしたストレスの軽減につながる
探し物の時間が多い⇒多忙感・ストレスの原因

生み出した時間で子どもたちと向き合うための時間を
作れてきたので、次のステップは、ワークライフバランス。
趣味の時間、余暇の時間を楽しむことは、先生個人の魅力につながる部分もあります。
より素敵な大人になってほしいです!

編集後記

大きくそして速いスピードで社会が変化していく中、本来の目的である「引き出す教育」「楽しむ教育」の実践に注力するという点について改めて考えさせられます。今回ご紹介した2校のGGKは力を注ぐべき事柄をもう一度はつきりさせていく、やりがいのあるものとなっています。

「今だから頑張れる」「私は大丈夫」ではなく、全体として「持続可能であるか」という視点も必要です。視野を広げる、見識を広げるという意味でも、家族と過ごす時間や趣味、余暇の時間も大切にしていきたいですね。

次号 VOL.7も
お楽しみに!

